



岡山県遊技業協同組合 「総合的社会福祉事業への 継続的支援活動」事業



岡山県遊技業協同組合 理事長
松村高男さん

岡山県の社会福祉 向上に欠かせない 継続的な寄付・支援活動を実践

快適生活県の実現に継続的寄付で貢献

岡山県では「自立と協働」、「創造と改革」を基調に、「快適生活県おかやま」の実現を県政の基本目標として定めて、「新おかやま夢づくりプラン」を策定し、2007年度から展開している。厳しい財政や経済・雇用情勢にあるものの、安全・安心、子どもの教育、子育て、環境保全などに配慮しながら、岡山の未来につながる分野の充実を図り、暮らしやすい岡山を目指しており、その基本戦略の一環として、県民の健康生活の確保、安心な医療体制の確保、食の安全・安心および食育の推進を柱とする「健康・医療プログラム」と福祉・介護人材の確保、ノーマライゼーションの推進、健康長寿社会の推進を柱とする「福祉プログラム」が掲げられている。

そうした県の施策を支援するため、岡山県遊技業協同組合（以下、岡遊協）では年間活動計画の中に「総合的社会福祉事業への継続的支援活動」事業を位置付け、県、防犯協会、日本赤十字社岡山県支部、マスコミ各社などと連携を密にしながら、実施に取り組んでいる。2011年度は総額で約305万円の寄付を行ったが、岡遊協が継続している寄付活動は、県内の福祉向上や防犯活動にとって、いまや欠かせないものとなっている。

県民に広く認知されて業界の地位向上

主な活動としては、まず、「桃太郎愛のともしび基金」への寄付活動がある。「桃太郎愛のともしび基金」は正式名称を「岡山県福祉基金」といい、社会福祉法人が設備整備を行う際の低利融資の財源に充てられる基金である。岡遊協では、1974年に50万円を寄付したのを皮切りに、1977年から毎年100万円の寄付を継続し、昨年度までの合計が3250万円となっている。

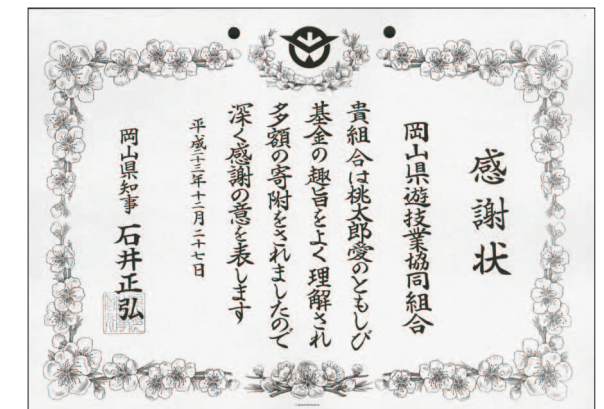
また、日本赤十字社岡山県支部への寄付活動も継続中であり、1983年の200万円の寄付以降、これまでに通算3050万円を寄付している。このほかにも救急車2台



毎年、総会時に実施している献血活動



長年の献血活動に対し日本赤十字社から贈られた表彰状



岡山県知事から「桃太郎愛のともしび基金」への支援活動に対して贈られた感謝状

(1984年、1985年)、成分献血車1台(1991年)を寄贈したほか、毎年、岡遊協の通常総会会場において献血奉仕活動を実施している。献血は健康であれば誰でもできる奉仕活動であり、組合員は一人でも多くの人の役に立てばとの願いのもと、自分が健康でいられることの喜びをかみしめながら参加している。

さらに県民の命を守ることに直結する活動として、自殺を思いとどまらせることを目的に設置されている「岡山のちの電話協会」に入会し、1990年から寄付を続けている。

こうした活動に対し、岡山県知事、日本赤十字社、岡山いのちの電話協会などから感謝状や表彰状が贈られるとともに、感謝状交付式や寄贈式の模様は、山陽新聞、岡山日日新聞などの地元紙をはじめ、山陽放送、岡山放送、テレビせとうちなどのテレビ局各社のニュースで報道され、広く岡山県民に認知されている。それらの報道によって、業界の社会的地位も確実に向上している。

岡遊協では、今後も関係機関・団体やマスコミなどとの連携を密にしながら、県の社会福祉事業への支援を継続していく決意である。